

I 氏邸訪問記(2018.10.4)

1. はじめに

前回の訪問は [I 氏邸訪問記\(2018.5.31\)](#) で報告していますが、その後のシステム変更の確認ということで、O 氏、M 氏とともに訪問してきました。

2. I 氏邸のシステムの変更点

前回の訪問時には、ターンテーブルにトルレンスの TD350BC を使用しておられましたが、調子が良くないとのことで、Lux の PD 171A に交換されていました。アームとカートリッジは、トルレンスのプレイヤーから移し替えています。



3. I 氏邸のシステムの試聴経過

まずは、I 氏の愛聴盤から、イ・ムジチのヴィヴァルディの四季、ルーデル／フィルハーモニアのマスナーのシンデレラ、シュワルツコップの歌曲集、クレンペラー／フィルハーモニアのワーグナーの彷徨えるオランダ人などを聴かせていただきました。前回訪問時より、明らかに音が安定し、透明感が増していることが分ります。

ここで M 氏お得意の TMD と foQ シートによるチューニングが始まりましたので、その間に、持参した三大テノールの CD を聴かせていただきました。先の [M 氏邸訪問時](#) にカレーラスの評価が I 氏と M 氏で分かれていましたので、リゴレットと椿姫の乾杯の歌を聴いて、O 氏に評価していただいたところ、O 氏は I 氏に賛同され、2：1 の結果になりました。カレーラス、ドミンゴ、パヴァロッティの歌唱内容や声の質が非常に分かりやすく再生されていました。

M 氏のチューニング処理も終わりましたので、持参したフランソワ＝フレデリック・ギィとグザヴィエ・フィリップの [ベートーベンのチェロソナタ](#) の最新録音の CD

とカザルスとゼルキンの同じ曲のアナログ盤を比較試聴しました。年代を隔てた演奏法の違いやそれぞれの解釈の違いが、如実に把握できました。

次に、M氏が持参されたワルターのベートーベンの3番のオリジナルのモノラル盤を、まずステレオのカートリッジで聴いておき、ついでM氏が持参されたオーディオテクニカのモノラル再生用のカートリッジに替えて聴き、さらに国内カッティング盤に替えて聴いていきました。I氏はモノラル再生用のカートリッジに替えた時の音がお気に入りようで、オリジナル盤と国内カッティング盤の違いにも頷いておられました。

この後、クナッパブッシュ／ウイーンフィルのワルキューレと持参したカラヤン／ベルリンフィルのハイドンの四季を聴いたところで、低域の膨らみ具合が気になりましたので、プレイヤーとトランスの下に、foQシートを取り付けてみましたところ、ハイドンの四季の低域のメリハリがはっきりして、合唱の混濁も薄らぎました。O氏のリクエストで、アンセルメ／スイスロマンドの春の祭典、ショルティ／ウイーンフィルの神々の黄昏を聴いたあと、再び、ウイーンフィルNYコンサートのモノラル盤をモノラルカートリッジに替えて聴き、これまでのチューニングとモノラルカートリッジによる再生のパフォーマンスを再確認できました。

ここで、さらにM氏がアームにもfoQシートを貼るチューニングを行いました。音の明瞭さは向上するものの、I氏が拘っておられる低域の豊かな響きが後退するくらいがありました。

アナログ盤と同じマスターのウイーンフィルNYコンサートのCDを聴いているところで、マッキンのCDプレイヤーが拙宅のフィリップスやEMTのプレイヤーに似た音がしているものの、スピーカーのキャビネットの上に置かれているので、音の滲みを感じられましたので、足の下にfoQシートを敷いてみたところ、この場合も音の明瞭度が向上しました。使用されているMCD7007のDACチップとピックアップを検索して調べてみますと、予想通りフィリップス系のパーツが使われていました。

最後に、ふたたび元のカートリッジに戻し、フルトヴェングラーのワーグナー集を聴いてI氏邸を辞しました。

4. まとめ

I氏邸のシステムは、プレイヤーを交換して、再生の安定度が確保され、音の透明度が向上していることが確認できました。また、I氏が、最近ほとんど聴いておられないモノラル盤を聴くためにモノラルカートリッジの導入に意欲を示される結果になりました。I氏は、オーディオ的なチューニングをほとんど施されていけませんので、副作用に注意しながら、I氏の感性にあったチューニングを適切に進めていく楽しさがあると思われれます。

以上